



# 第3会場 ● 4F 視聴覚室

司 会 / 中原 誠輔 山口県下関市立栗野小学校 教頭  
林田 匡 熊本県熊本市立本荘小学校 教諭

分科会の進め方

10:45~10:50

## 1 健康づくり実践に踏み込んだ公民館の高齢者保健教育の思想とプロセス 10:50~11:20

平川 裕之(福岡県田川市 田川市教育委員会生涯学習課)

介護予防は現行システム上基本的に福祉行政の事業であるが、高齢者教育の一環として公民館がプログラム化した背景には、田川市における介護保険認定者数値(出現率)の高さがある。介護予防は社会教育における実践的な予防教育の新企画である。事業は保健センター、運動指導を主とするNPO、県立大学、地域内小学校などと協働した総合的健康づくり実践プログラムである。中身は「健康運動プログラム」の実践、「食育」の実地指導、小学校の協力を得た子どもと高齢者の「給食ランチ・パーティー」、大学による「介護予防のための地域リーダー研修会」などを組み合わせている。

## 2 ビッグフィールド大野隊 —大人が掲げた教育思想とその実践、子どもが受けとめた体験活動の成果と社会貢献— 11:25~11:55

川西 董泰(広島県廿日市市 ビッグフィールド大野隊 見守り隊代表、大野中学校区学校地域支援本部 地域コーディネーター)  
岡崎 良雄(広島県廿日市市 ビッグフィールド大野隊 見守り隊、大野中学校区学校地域支援本部 地域コーディネーター)  
佐々木順子(広島県廿日市市 ビッグフィールド大野隊 見守り隊、大野中学校区学校地域支援本部 地域コーディネーター)

H16年に創設した大野隊の目標は、自立した一人前の子どもを育てることである。大人たちはボランティア活動・体験教育を指導法として採用した。対象は旧大野町内の小中学生から公募する。活動の終了後は「見守り隊ジュニア」として様々な年代が隊員を支援している。合併後も子ども自身の社会貢献、異年齢集団での活動、労働を通じた自主財源の捻出、自らの実践を通して学ぶなどの理念を貫徹して活動を継続している。2010年アレク・ディクソン賞を受賞。

## 3 「家読(うちどく)」で築く家族・地域の絆 —佐賀県伊万里市黒川町「家読(うちどく)」推進運動の挑戦と成果— 12:00~12:30

小島 哲郎(佐賀県伊万里市 黒川町「家読」連絡会 事務局長【伊万里市黒川公民館】)

伊万里市が「『家読』のすすめ」運動を推進し、住民による読み聞かせや読書運動が積極的であった黒川町がそのモデル地区に指定された。以来、「家読」はその活動推進を地区が受託する事業となり、幼保小中学校も地域と一体となって定例の「家読」集会、各種おはなし会、「家読」発表会などの行事を積み重ねて広く住民に浸透し、読書運動を通して子どもの情操教育の推進はもとより、家族・地域の絆が形成されて行った。平成20年、伊万里市は「家読」推進の成果に対して全国で唯一、文字・活字文化大賞を受賞した。